

自立貢献

あいさつは あふれる笑顔の あいことば

横浜市立錦台中学校 学校だより

発行日 平成28年2月3日(水)

発行者 学校長 枝迫大成

所在地 神奈川区西寺尾3-10-1

電話 401-3644 FAX431-0244

URL <http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/jhs/nishikidai/>

「雨垂れ石を穿つ」

副校長 栗田智則

「雨垂れ石を穿つ(あまだれ いしを うがつ)」という言葉があります。軒下から落ちるわずかな雨垂れでも、長い年月をかけて同じところに落ち続ければ、硬くてじょうぶな石にも穴を開けることができるというのです。これは、どんなに小さな力でも、根気よく続けていけば、いつか成果が得られるというたとえで使われることがあります。

1年生の自然教室で訪れた鳴沢氷穴。平安初期に富士山の北西山麓で貞観大噴火が発生し、そのときに噴出した膨大な溶岩が徐々に冷えて固まる際に、内部にある高熱のガス体や冷え切らない溶岩が抜け出すことで形成された空洞で、富岳風穴とともに富士山麓の天然記念物に指定されています。その内部の年間平均温度は3℃程度。地下21mでは、氷柱や玄武岩質溶岩群を見ることができ、自然の神秘を体感することができました。

冒頭の言葉や自然の力から、人として、学びたいことがあります。それは、何事にも懸命に打ち込んで努力すればどんな苦難な壁でも突破できるということ。そして、努力に費やした時間はとても偉大であるということです。ですから「どれだけ努力したか」を絶えず自分に問いかけ続けることができる人は、自分で納得のいく成果を得られるのだと思います。

あの発明王トーマス・エジソンは「成功というものは、その結果ではかるものではなく、それに費やした努力・時間の統計ではかるものである」と。また、「成功しない人がいたとしたら、それは考えることと努力すること、この二つをやらないからではないだろうか」とも言っているのです。

人間の偉業には、必ず偉大な努力が伴っているのですが、その結果ばかりにとらわれすぎて、努力ということが忘れられている場合があると思います。たとえば、スポーツの試合の結果などで、「勝つ」ということは勝負ですから、確かに大切なことですが、「勝つ」という結果がどのようにして生まれてきたのか、それに至るまでの過程で、どれだけがんばったのかという努力の問いかけが、実は大事なのではないのでしょうか。昨年、W杯で南アフリカ代表に勝利したラグビー日本代表や、今夏に開催予定のリオデジャネイロ五輪に向けて日本代表となるために戦う各競技の選手たちを観ていて、強く感じます。どうしても結果ばかりに気をとられる人もいるかもしれません。ただ、いかに楽をして何も努力せずにつかむ結果を選ぶより、「栄光の陰に涙あり」という言葉のように、涙あってこそ、努力あってこそその栄光という結果で輝いてほしいものです。

いよいよ立春をむかえ、今年度もあと2ヶ月です。それぞれの今できる「努力」、今からできる「努力」を再確認してみたいでしょうか。

